



日本物理教育学会 ニューズレター

学会行事 | **物理教育関連行事** | **支部行事** | **編集委員会** | **事務局より**

次世代形成 WG より

▶【新企画】学会公式 YouTube チャンネルにて「物理教育虎の巻」の配信を開始！！

物理教育学会の公式 YouTube チャンネルにて、新企画「物理教育虎の巻」の配信を開始しました。

授業のヒントや実験のコツを凝縮してお届けしますので、日々の教育活動にぜひご活用ください！

第 1 巻講師は岸澤先生、第 2 巻講師は湯口先生です。

今後はさらに多くの先生方をお迎えし、様々な授業のコツを配信する予定です。

「この先生のお話を聞いてみたい」というご要望がございましたら、下記アドレスまでぜひご連絡ください。皆様のご視聴をお待ちしております。

pesj.next@gmail.com

文部科学省主催「地震・測地データ活用アイデアコンテスト 2026」開催案内

概要：中高生・高専生・大学生等を対象に、「地震・測地データと情報科学の融合的活用方策」をテーマとしたアイデアコンテストを開催します。

本イベントではアイデア形成を支える教材と現場研究者等からの直接アドバイスでみなさんの発想を社会に届く提案へ結びつけるためのサポートも実施いたします。

参加登録受付：2026 年 5 月上旬予定

アイデアの提出のべ切：2026 年 7 月下旬予定

書面による 1 次審査：2026 年 8 月上旬を予定

最終審査会：2026 年 8 月下旬予定

最終審査会 会場：都内会場とオンラインの併用を予定

対象：対象：中高生，高専生，大学生等

参加費：無料

参加申込みページ：<https://mext-idea-contest-site.vercel.app/>

＜アイデアの例＞ ※以下に限定されず，自由に発想いただいて問題ありません

- 地震・測地データを活用した新たなビジネス・研究のアイデア
- 地震・測地データの効率的解析に向けたプログラム・アルゴリズム設計のアイデア
- 生成系 AI (Chat GPT など) を用いた地震・測地データの新たな活用方法
- 地震・測地データと結び付けたら面白いデータとその活用方法
- 地域の安心・安全の向上に向けた地震・測地データの活用方法

令和 8 年度第 21 回筑波大学朝永振一郎記念「科学の芽」賞

[趣旨]

筑波大学では，本学の前身である東京教育大学の学長を務めるなど，本学にゆかりのあるノーベル物理学賞受賞者の朝永振一郎博士の功績を称え，それを後続の若い世代に伝えていくとともに，小・中・高校生を対象に自然や科学への関心を高め科学の芽を育てることを目的としたコンクールを開催します。

学校での児童・生徒による理科・科学学習の発表の場としての活用，また，子供たちの探究的な学びの動機付けとしても活用いただけるかと存じます。

[応募内容]

自然現象の不思議を発見し，観察・実験して考えたことを，レポート 10 枚以内にまとめましょう。

[募集対象]

小学校 3 年～6 年，中学校，義務教育学校，高等学校[高等専門学校 3 年次までを含む]
中等教育学校，特別支援学校（小学部 3 年～高等部）

[応募期間]

令和 8 年 8 月 17 日（月）から 9 月 12 日（土）

詳しくは以下の web サイトをご覧ください。

<https://www.tsukuba.ac.jp/community/students-kagakunome/>

市民講座「物理と宇宙」

京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻および京都大学基礎物理学研究所主催の市民講座が開講されます。詳細は，添付のちらしをご覧ください。

令和 8 年度東レ理科教育賞のお知らせ

【東レ理科教育賞】

応募資格：中学校・高等学校の理科教育を担当，指導，または研究する方

応募申請：2026 年 9 月 30 日 24 時締切／事前申込みは 9 月 29 日 12 時まで

【東レ理科教育賞・企画賞】

応募資格：中学校・高等学校の理科教育を担当，指導，または研究する方

応募申請：2026 年 9 月 10 日 24 時締切／事前申込みは 9 月 9 日 12 時まで

詳細：<https://www.toray-sf.or.jp/awards/education/>

日本物理学会 80 周年記念行事のお知らせ

◆80 周年記念国際シンポジウム

日 時:2026 年 9 月 13 日 9 時～17 時 45 分(出入り可、休憩有)

(受付 8 時 15 分～9 時)

場 所:東京大学 駒場キャンパス 900 番講堂 (目黒区駒場 3-8-1)

◆バンケット

日時：同日 18 時～20 時 30 分を予定 (受付時間含む)

場所：ルヴェ ソン ヴェール駒場 (東京大学駒場ファカルティーハウス 1 F)

<https://leversonverre-tokyo.com/restaurant/komaba/#access>

※本バンケットは TAKACY TECHNOLOGIES 様のご協賛により開催いたします

つきましては、7 月 21 日(火)までに以下のフォームより

出欠をお知らせいただけますと幸いです。

<https://forms.gle/zqMa3invnPwzZrKQ9>

80 周年記念国際シンポジウム特設ページ

https://cp-entry.com/jps/80th_anniversary/

所属等に変更があった場合のお願い

異動・転職・退職などで学会に登録されている事項 (所属，メールアドレス等) に変更があるときは，下記の学会事務局までご連絡をお願いいたします。

office (at) pesj.jp (ただし，(at)は@で置き換えてください)

事務局より

▶ 学会監修本「物理教育の理論と実践 「物理がわかる」を育むアプローチ」の紹介

日本物理教育学会次世代形成ワーキンググループが企画・実施した「物理教育レクチャーシリーズ」を土台に、内容の再構成と拡充を行い、参考文献なども充実させて書籍化しました。日々の授業で役立つ実践的なアイデアに加え、その背景となる教育理論や研究成果も紹介しています。

書名：『物理教育の理論と実践 「物理がわかる」を育むアプローチ』

監修：一般社団法人 日本物理教育学会

出版社：オーム社

ISBN：978-4-274-23376-0

発売日：2025/7/28

▶ ニュースレターで広報したい行事などありましたら、9 月 20 日までに以下のアドレス宛にご連絡ください。

news(at)pesj.jp (ただし、(at)は@で置き換えてください)

ニュースレター編集委員会で掲載の適否を審議し、記述を編集いたします。

発 行：一般社団法人 日本物理教育学会会長 新田 英雄

編 集：一般社団法人 日本物理教育学会 ニュースレター編集委員会

発行日：2026 年 7 月 13 日

拝啓

ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さてこの度、京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻及び京都大学基礎物理学研究所主催による市民講座「物理と宇宙」を開催することになりましたので、御案内をお送り致します。

本市民講座は2003年度に発足した21世紀COE、それを受けて2008年度から始まったグローバルCOE、両プロジェクトの主催により開催してきたものを、2012年度のグローバルCOE終了後も引き続き開催してきたものです。プロジェクト終了後の第11回となる今年度は下記要領にて実施いたします。

2026年10月4日(日)午後1時～5時15分

京都大学百周年時計台記念館 大ホール

つきましては誠に不躰ではございますが、本市民講座のポスター・チラシを同封させていただきました。掲示(配布)できる余裕がございましたら広く周知いただけると幸いです。

また、講演会の詳細は下記ウェブページでもご確認いただけます。

http://www.scphys.kyoto-u.ac.jp/Public_Lecture/index.html

よろしくお願い致します。

敬具

2026年6月

市民講座委員会委員長 高田 淳史

(京都大学大学院物理第二分野)

物理と宇宙

講演
1



量子コンピューターは 宇宙の謎を解けるのか？

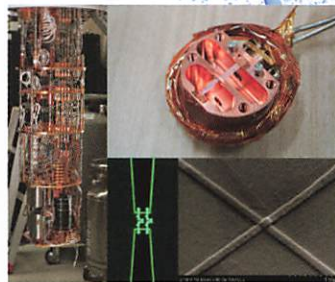
— 量子技術で挑むダークマター探しの最前線 —

ちん し おん

陳 詩遠 准教授

京都大学理学部物理学第二教室

量子コンピューターの構成要素である量子ビットは、外から来るノイズにとても弱い。これはコンピューターとしてはこの上なく厄介ですが、逆に言えば、ごくわずかな信号にも敏感に反応できる高性能なセンサーになれることを意味します。宇宙には、光では見えない未知の物質「ダークマター」が大量に存在すると考えられています。しかし、その正体は今なお分かっていません。近年注目されているのが、超伝導量子ビットの極限的な感度を利用して、未知粒子の痕跡を捉えようという新しい研究です。本講演では、超伝導量子ビットの基礎から出発し、量子ビットを「計算」ではなく「観測」に使う新しい発想、そして現在進行中の実験について紹介します。



講演
2



巨大電波望遠鏡で見上げる星空

～ 太陽系の昔の姿とは？～

おお や よう こ

大屋 瑤子 講師

京都大学基礎物理学研究所

「太陽系をはじめとする惑星系はどのようにして誕生したのか？」「太陽系や地球の環境はどのようにして作られたのか？」～ これらは、宇宙物理学・天文学が挑戦してきた長年の謎です。生まれたばかりの星は「電波」と呼ばれる光の一種で光っており、その「色」は温度などの条件やそこにある物質（水や酸素など）に応じて変化します。この講演では、世界各国の巨大な電波観測所による成果を交えながら、上記の謎に挑みます。



講演
3



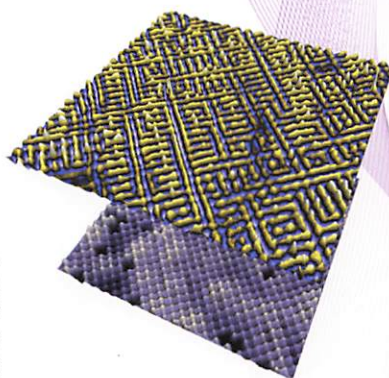
原子を見る、 電子を見る

こう さか ゆう き

幸坂 祐生 教授

京都大学理学部物理学第一教室

走査トンネル顕微鏡（STM）は、物質表面の原子や電子の状態を観察できる装置です。本講演では、「人類はどのように見えない世界を見てきたのか」という観点から、顕微鏡の発達の歴史や、電子が波として振る舞う量子力学の不思議について紹介します。また、STMによって実際にどのような世界が見えているのか、超伝導をはじめとする研究の最前線についても、現在進めている研究を交えながらお話しします。



受講料無料

定員 500名

対象：中高生以上

2026 10.4 日

午後1時～5時30分

京都大学百周年時計台記念館（大ホール）

交通アクセス

会場の京都大学時計台記念館には公共交通機関でお越し下さい。
（バス停「京大正門前」より徒歩5分）
詳細については右記を参照ください。



詳しくはこちら

講演プログラム

1:00 - 1:05	開会	
1:05 - 1:15	あいさつ	
	成木 恵（理学研究科物理学・宇宙物理学専攻 専攻長）	
1:15 - 2:05	講演1 陳 詩遠（質疑応答10分）	休憩（各15分）
2:30 - 3:20	講演2 大屋 瑤子（質疑応答10分）	
3:45 - 4:35	講演3 幸坂 祐生（質疑応答10分）	
5:00 - 5:30	パネルディスカッション（講師全員）（30分）	
5:30	閉会	